

# 音楽科（創作分野）学習指導案

日 時 令和3年11月2日（火）  
学 級 北上市立飯豊中学校  
1年C組 28名（男子13名、女子15名）  
授業者 教諭 奥島美成子

## 1 題材名

第1学年 創作「言葉の抑揚やリズムと表したいイメージを関わらせて音をつなげ、学級のよさをPRする旋律をつくろう」

## 2 題材について

### （1）題材の位置付けと扱う教材について

本題材は学習指導要領の、A 表現（3）創作の活動を通して身に付くことができるよう指導する事項で、ア、イ（ア）、ウ、[共通事項] リズム、旋律に関わる学習を中心としている。

本題材では、学級のよさを表現した言葉を、言葉の抑揚（旋律）やリズムに注目した知覚・感受を繰り返しながら4つの音を用いて音のつながり方を試行錯誤し、表したいイメージに近づけていき旋律として音楽表現することや、表したいイメージと関わらせながら音のつながり方の特徴を理解するとともに、それらを生かした創作表現を創意工夫して旋律をつくることをねらいとする。

### （2）題材と生徒との関わり

これまで生徒たちは、小学校での学びを土台とし、歌唱や器楽、鑑賞を中心に学習してきた。歌唱の取り組みについては、新型コロナウイルス感染対策のため例年よりも少ないものの、学習の積み重ねにより曲想や音楽の構造との関わりに目を向けながら、音楽の授業に取り組んでいるように感じる。

学習指導要領では、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して」資質・能力の育成を目指すことが目標として掲げられており、多様な音楽活動を行うことが求められている。そこで、生徒一人一人の個性や興味・関心を生かした旋律創作の活動にも挑戦し、資質・能力を育むことにつなげていきたい。

### （3）題材と本校研究主題とのかかわり

本校では、「主体的に学習に取り組む生徒」を育てることを目標に、ユニバーサルデザインの視点である「焦点化」「視覚化」「共有化」に重点を置き、授業実践を行っている。

音楽科では、「主体的に学習に取り組む生徒」を、「音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現および鑑賞の学習活動に取り組もうとしている生徒」と捉え、生徒の主体性を引き出し、学習内容に対して喚起した興味・関心を持続させることを大切にしている。その手立てとして、「授業課題の焦点化」「活動の視覚化」「互いの発想や見通しの共有化」を図り、生徒一人一人の学習を支援することが、主体的に学習に取り組む生徒の育成につながるものと考えている。

## 3 題材の目標と評価基準

### （1）題材の目標

- ① 言葉の抑揚やリズムと、表したいイメージを関わらせた音のつながり方の特徴を理解する。
- ② 言葉の抑揚やリズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したこととの関わりについて考えるとともに、創作表現を創意工夫する。
- ③ 言葉の抑揚やリズムと音のつながり方との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組む。

(2) 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知	言葉の抑揚やリズムと、表したいイメージを関わらせた音のつながり方の特徴を理解している。	言葉の抑揚やリズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、創作表現を創意工夫している。	言葉の抑揚やリズムと音のつながり方との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。
技	創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な、条件に沿った音を組合せて曲をつくる技能を身に付けている。		

4 題材全体を通した指導と評価の計画【題材構想】

題材全体の追究課題

言葉の抑揚やリズムを生かした旋律をつくろう

	学習課題とねらい	評価の観点			評価規準と方法
		知 技	思	態	
1 ・ 2	<p>創作①②</p> <p>言葉の抑揚やリズムを生かして音をつなげてみよう</p>	知  技	思	態	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉の抑揚やリズムと表したいイメージを関わらせた音のつながり方の特徴を理解している。 【知：ワークシート】</li> <li>言葉の抑揚やリズムと表したいイメージを関わらせた音を組合せる技能を身に付けている。 【技：ワークシート】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉の抑揚やリズムと表したいイメージと関わらせた音の特徴を理解する。</li> <li>言葉の抑揚やリズムを生かして音を組合せる技能を身に付ける。</li> </ul>				
3 本時	<p>創作③</p> <p>言葉の抑揚やリズムを生かして学級のよさをPRする曲をつくろう</p> <p>言葉の抑揚やリズムと表したいイメージを関わらせて音をつなげ、学級のよさをPRする旋律をつくる。</p>	技	思	態	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉の抑揚やリズムと表したいイメージを関わらせて音を組合せる技能を身に付けている。 【技：ワークシート】</li> <li>言葉の抑揚やリズムと表したいイメージを関わらせ、創作表現を創意工夫している。 【思：観察、ワークシート】</li> </ul>

創作④ 発表 学級のよさをPRする曲を発表しよう					
4	グループごとにつくった曲を発表し合い、そのよさや工夫が感じられたところなどをまとめる。	知	段	應	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の抑揚やリズムと表したいイメージを関わらせた音のつながり方の特徴を理解している。 【知:発表、ワークシート】</li> <li>・言葉の抑揚やリズムと表したいイメージを関わらせて音を組合せる技能を身に付けている。 【技:発表、ワークシート】</li> <li>・言葉の抑揚やリズムと表したいイメージを関わらせた音のつながり方に関心を持ち、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。 【態:観察】</li> </ul>

## 5 本時の指導

### (1) ねらい

言葉の抑揚やリズムと表したいイメージを関わらせて音をつなげ、学級のよさをPRする旋律をつくる。

### (2) 評価規準

おおむね達成	未達成の生徒への支援・手立て
<b>【知識・技能】</b> 言葉の抑揚やリズムと表したいイメージとを関わらせて音を組合せる技能を身に付けている。 【ワークシート】	<b>【知識・技能】</b> 音の組合せに悩んでいる生徒には、言葉の抑揚やリズムに気付かせ、それを音の組合せにつなげていくように助言する。
<b>【思考・判断・表現】</b> 言葉の抑揚やリズムと表したいイメージを関わらせ、創作表現を創意工夫している。 【観察、ワークシート】	<b>【思考・判断・表現】</b> グループ活動が滞っているようであれば、他のグループの創作表現などを例に出し、どのような工夫があるかに気付かせ、それをグループの創作表現の参考にさせるように助言する。

### (3) 指導構想

本時は、言葉の持つ抑揚やリズムを生かして旋律をつくる創作表現の3時間目にあたる。用いる音を「ミ、ソ、ラ、ド」の4音に限定し、言葉の抑揚やリズムと表したいイメージとを関わらせて音をつなげていく。用いる音を限定することや、言葉を自分たちで考えることにより、主体的に、そして楽しみながら創作活動に取り組むことができると予想される。

本時は、「自分の学級のよさをPRする曲をつくる」学習に取り組む。前時の振り返りのあと、導入の段階で本時の説明を行う。前時までには言葉ができていたため、本時はグループで、条件に沿って音をはめ創作し、グループ全員の作品をつないで曲をつくる学習時間となる。

生徒にとって慣れない分野ではあるが、学級のよさを表現した言葉から旋律をつくるという身近な課題で、本時の学習への興味や関心を喚起することができると思う。ユニバーサルデザインの「焦点化」に関わる部分である。

展開部分では、個々で考えた言葉をグループで共有し、リコーダーやキーボードなどを使用し、旋律を試行錯誤させる。また、創作途中で、進んでいるグループに演奏してもらい、自分たちの創作表

現の発想や見通しを共有させる。ユニバーサルデザインの「共有化」に関わる部分である。グループ学習時には、リズムをとりやすくするため、目にふれやすい大きなメトロノームで拍を提示する。また、黒板に鍵盤図とリコーダーの運指図を掲示し、指づかいを分かりやすくし、演奏しやすくなるよう工夫する。ユニバーサルデザインの「視覚化」に関わる部分である。終末では、他の生徒の考え方も共有させることにより、自分たちと異なる作品に目を向けさせる。

このように、ユニバーサルデザインの視点を手立てとして、生徒一人一人の学習を支援することにより、学習内容に対する興味・関心を持続させることのできる授業実践を行い、本校音楽科の目指す「主体的に学習に取り組む生徒」を育てる本時としたい。

#### (4) 黒板使用計画

学習課題	言葉の抑揚やリズムを生かして学級のよさをPRする曲をつくろう
<p>創作のルール</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 言葉の抑揚やリズムを生かして、4分の4拍子で曲をつくる。</li><li>② 「1年C組よいところ」に続けて曲をつくる。</li><li>③ 「ミ、ソ、ラ、ド」の4音を使用する。</li><li>④ グループごとに曲の順番を考え、曲をつなぎ合わせる。</li><li>⑤ 曲の終わりは「1年C組よいところ」とグループ全員で歌って完成！</li></ol>	
鍵盤図 リコーダー運指図	



(5) 展開

本時：3/4時間

段階	学習内容と学習活動	指導上の留意点 等	UDの視点 ◆評価
導入	1 前時の振り返りを行う	・自分のワークシートを確認する。	
	2 本時の学習の見通しをもつ	・本時の見通しが持てるように、本時の流れを提示する。	<b>UD《視覚化》</b> 本時の流れを提示
	3 学習課題の設定をする		<b>UD《焦点化》</b> 本時の学習課題の設定
15分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>言葉の抑揚やリズムを生かして 学級のよさをPRする曲をつくろう</p> </div>		
展開	4 自分で考えた言葉をグループで共有する	・創作のルールを確認させ、学級PRの言葉をグループで共有させる。	<b>UD《共有化》</b> 互いの発想や活動の見通しの共有
	5 言葉の抑揚やリズムを生かして旋律をつくる	・リコーダー、キーボード等を使用し創作させる。	<b>UD《視覚化》</b> 活動を補助する掲示
	6 考えた曲をグループで共有し、つなぎあわせて旋律をつくる		・言葉の抑揚やリズムと表したいイメージを関わらせて音を組合せる技能を身につけている。【技】 ・言葉の抑揚やリズムと表したいイメージを関わらせ、創作表現を創意工夫している。 【思・判・表】
28分	7 創作の進んでいるグループが発表する	・創作の進んでいるグループの発表を聴き自分達のグループの参考にさせる。	<b>UD《共有化》</b> 他のグループの発表
終末	8 振り返りを行う	・本時の課題に対するまとめと、本時の学習を通して、学びが深まったことについての振り返りを行う。	<b>UD《共有化》</b> まとめ・振り返りの共有
7分	9 全体で交流する	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>言葉の抑揚やリズムを生かして曲をつくるのは難しかったがなんとかできあがりうれしい。学級のよさを考えることもできた。次回は発表するので、頑張りたい。</p> </div>	